

## 農業経済学研究総合演習（12単位）

担当者氏名 農業経済学専攻指導教授

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士後期課程の大学院生を対象に、全教員の前で各自の研究成果を発表し、幅広い視点から研究方法、分析手法、問題点などを確認・修得する演習である。同時に他の院生の発表を聴講し、学術的討論を行うことも課題とする。博士後期課程の学生は1年次から数回にわたる発表が義務づけられている。大学院生は、この演習をとおして高度で多様な手法、視点等にたった研究をすすめることができる。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法について学習することも目標とされる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

農業経済学

食料経済学

環境経済学

農業政策論

国際農業・貿易論

フードビジネス論

農業史・農村社会学

地域経済論

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習) 等の内容と分量
1～7	1年次 第一回総合演習	・研究課題の設定と先行研究の整理、研究計画の立案について理解し、実践することを目標として学習する。同時に他学年の発表を聞くことで、学術報告の意義について学ぶ。	◎指導教員による個別の授業のほか、全院生及び教員の出席の下、研究成果を発表し幅広い手法、視点等からの課題を学ぶ。
8～15	第二回総合演習		◎発表毎に、各自で研究レジュメ A4判8ページを用意するとともに、発表用スライドを準備することが必要である。
16～23	第三回総合演習		
24～30	第四回総合演習	・調査研究の実施とデータ分析および研究の体系的な取りまとめについて理解し、実践することを目標に学習する。後期課程の院生を含む他学年の発表を聞くことで、学術報告における質疑の方法についても学ぶ。	
31～38	2年次 第一回総合演習		
39～45	第二回総合演習		
46～53	第三回総合演習		
54～60	第四回総合演習		
61～68	3年次 第一回総合演習	・研究結果の学位論文としての体系性をもった取りまとめ方について理解し、実践することを目標として学習する。	
69～75	第二回総合演習		
76～83	第三回総合演習		
84～90	第四回総合演習		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

各自で事前に研究用レジュメを準備するとともに、発表用スライド（場合によってはポスター）を準備する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

食と農の現段階と展望/東京農業大学農業経済学会編/東京農大出版会/(2004)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

年4回の集中、3年間の報告と討議にもとづき評価する。

◆オフィスアワー

各指導教授のオフィスアワーを参照されたい。

◆その他受講上の注意事項

各自の研究対象と異なる研究対象の発表でも、幅広い視野及び手法を学ぶために、課題と問題意識等をもつて参加することが必要である。

---